

令和2年度 府中市立本宿小学校学校経営報告

令和3年3月29日

校長 佐藤 純一

(教育目標)

心身ともに健康で、知性と感性にとみ、自ら学ぶ実践力をもつ人間性豊かな児童「輝きのある子」の育成を目指す。

○ 自分の考えをもち、やりぬく子供

自ら主体的に考え、課題意識をもち、問題を粘り強く解決していく能力や態度を育成する。

○ 豊かな心をもち、仲良く助け合う子供

人権を尊重し、公共の精神を尊び、お互いを認め励まし合う温かな心や他人を思いやる心を育成する。

○ 健康安全に気を付け、体をきたえる子供

自他の生命を尊重し、自ら健康を保ち、体力づくりに取り組む態度と実践力を育成する。

1 目指す学校像

創立50年を迎える本校の歴史と伝統を受け継ぎながら、第2次府中学校教育プランにある「ふるさと府中に誇りをもち、世界に活躍する府中っ子を育てる」の実現を目指す。また、保護者、地域の信頼に応え、教育目標である「輝きのある子」の育成を目指す。

(目指す学校)

(1) 子供が主役の学校づくりをすすめる。

① 子供たちが落ち着いて安心して生活できる。安心、安全である。

② 友達の心が温かい。

③一人一人のよさや可能性を引き出す。

④他者の立場、考え、思いを尊重した行動をしようとする思いやり、優しさを育てる。

⑤たくましく自立するための基礎基本の定着を図る。

⑥自分の役割がある。

(2) 教職員が、学び合い磨き合う学校づくりをすすめる。

① 組織として共通の目標をもち、意欲と知恵と行動力を結集する。

② 研究と修養に努め、常に自分自身の資質・能力の向上を図る。

③ 仕事は厳しく、人間関係は温かく。互いに指導・助言し合える人間関係ができています。

(3) 保護者・地域と協力・連携する学校づくりをすすめる。

① 地域に広がる。(学校の教育活動を、家庭や地域に広げ、児童の実践力を高める。)

② 地域から学ぶ。(地域の人から学ぶ。歴史的・文化的施設や地域行事から学ぶ。)

③ 地域と繋がる。(地域行事に参加する。地域活動に貢献する。施設を地域に開放する。)

2 今年度の取り組みと自己評価

(1) 教育活動の目標と自己評価

① 児童の学力を図る。

- ・臨時休校により授業日数は削減されたが、ねらいを明確にした指導計画を実践するとともに、行事の精選、学習規律の指導を行い、授業時間を確保した。
- ・毎時間のねらいを明確にし、児童が達成感を味わえる授業を行った。特に、問題解決学習を推進し、主体的・対話的に学ぶ意欲や達成感を高めるために、問題解決学習の実践を、授業観察を通し教員に指導した。
- ・授業開始時刻、終了時刻順守による授業時間の確実な確保した。
- ・学習規律（授業規律、持ち物、ノート指導等）を指導した。特に、手を挙げて、指名されたら「はい」と返事をし、立って答え、「です。」で終わる指導を全校で取り組んだ。
- ・外国語専科教員と外国人教員や担任教師との連携を強化し、「外国語」「外国語活動」の授業を充実させることで、児童は英語による表現に意欲的に取り組んだ。
- ・算数少人数指導、TT、学校支援員による個別指導を充実させ、個別指導を実施した。
- ・タブレットパソコンや情報通信ネットワークを有効に活用した、調査活動や交流活動を実施し、児童のICTを活用して学習する力を育てた。
- ・タブレットパソコンやプログラミングシフトを活用した授業改善を行い、プログラミング思考につながる論理的思考力を育てた。

② 教師の資質能力の向上を図る。

- ・校内研究で「ふるさと学習」に取り組み、学年や学校全体に、教師一人一人が授業を積極的に公開し、組織的に教員の指導技術及び児童の学力の向上を図る。互いを高め合った。
- ・ショート研修を定期的に行い、授業中のノート指導や板書、児童理解の方法教師の指導力の向上を図った。
- ・自己申告を活用し、教師に今年度の目標を明確にもたせるとともに、校内研究の年間を通した継続的な取り組みを実施した。
- ・全教員が週の指導計画作成及び提出をおこない、教育課程の自己管理を自薦した。
- ・副校長等校務改善支援事業を活用し、副校長による授業観察を積極的に行い、教師の指導力向上を図った。
- ・体罰防止、個人情報管理について教員の意識向上を重点に、3回のサービス事故防止研修を行った。

③ 感染症拡大予防に対応した児童の健康安全、いじめの未然防止、早期解決を図る。

- ・手指消毒、うがい、マスクの着用、身体的距離の確保等の、感染症拡大予防のための行動を、児童が理解し主体的に感染拡大予防の行動を取れるようになった。
- ・感染症拡大予防のための、登校時の見守り、健康観察、授業形態の確認、消毒用消耗品の配布・補充等の対応を、組織的に行った。
- ・児童の課題を共有し、全校で協力した指導を実施できた。日常的な児童観察、児童理解に努め、情報交換を密に行った。
- ・年間3回の「いじめアンケート」を実施し、児童の実態把握に努め、未然防止、早期解決を図った。いじめ0にはならなかったが、発見されたいじめについて、組織的な対応、

保護者と連携した対応を行った。

- ・いじめが発見されたら、すぐに「本宿小学校いじめ防止対策委員会」を開催し、組織的な対応策を検討、決定するとともに、児童、保護者への初期対応を行った。
 - ・毎学期、「いじめの授業」の取組を行った。
 - ・毎月一回の避難訓練を通して、火災や地震発生時の避難行動を繰り返し指導し、児童は自覚して行動できるようになった。感染症予防のため地域と連携した防災訓練が実施できなかった。
 - ・児童のアレルギー反応についての確実な情報提供を保護者と行い、食物アレルギー対応を確実にを行った。
- ④ 不登校の防止に努めるとともに、不登校児童、家庭への対応を充実させ、不登校児童の再登校を図る。
- ・不登校児童の保護者との面接、連絡を定期的実施し、共通の目標のもと、協力して対応した。不登校児童の登校回数の増加につなげた。
- ⑤ 特別支援教育等、個別に配慮を必要とする児童への指導を充実させる。
- ・保護者の合意の基「学校生活支援シート」を1学期中に作成し、保護者と連携した計画的な指導を実施した。
 - ・個別に配慮が必要な児童へは、学校支援員の個別指導、巡回指導、スクールカウンセラー、特別支援教室等の階層的な支援を実施した。
 - ・保護者や関係機関（巡回相談チーム、民生児童委員、府中市子ども家庭支援センター、児童相談所、スクールソーシャルワーカー）との連絡を密にし、児童一人一人の状況把握に努め、児童虐待を予防した。
- ⑥ 基本的な生活習慣を定着させるとともに、他者への優しさ、思いやりを育成する。
- ・本校の合言葉である3つの「あ」（あいさつ、あんぜん、あとしまつ）を指導した。学期に1回、生活月目標にあいさつを掲げ、重点的にあいさつ指導を行った。保護者アンケートでは、「学校は挨拶や社会のルールを適切に指導している。」についてのアンケート結果、肯定的評価は86%であった。
 - ・感染症予防のため、直接的な副籍交流活動は制限があったが、特別支援学校児童と交流を行った。
 - ・感染症予防のため、全校児童が交流することに制限があったが、小グループに分けオンラインでのたてわり活動を行い、児童間の年齢を超えた、豊かな関わりの中で思いやりの心を育んだ。
 - ・「ふるさと学習」、農園活動、見学活動を中心とした体験活動を通して、社会性を身に付けるとともに、自然への感謝や畏怖の心、働くことの意味や社会貢献の大切さを育んだ。
 - ・低学年を中心に、ふわふわ言葉とちくちく言葉を理解させ、言葉には影響力があることを指導した。
 - ・「QU調査」の結果分析により、児童理解を図り、良好な人間関係作り、生活指導を行った。感染予防により様々な活動が制限される中、児童間の心的なつながりが継続されていることが分かる良好な結果が見られた。
- ⑦ 体力の向上を図る。
- ・新型コロナウイルス感染予防のため、運動会、6年生連合陸上記録会、体育朝会、全校

縄跳び週間、全校持久走週間は実施できなかった。

- ・体育授業では、感染症対策を施したうえで、授業改善に取り組み、運動量を確保し、意図的・計画的に体力向上を図った。
- ・オリンピック・パラリンピック教育を推進し、外部講師を招いてのパラリンピック競技体験を行った。

⑧ コミュニティスクールの推進

- ・創立50周年記念式典は中止蝸田が、創立50周年記念行事のコンセプトを「これまでの50年間の地域の協力・連携に感謝し、これからの本宿小学校と地域とのかかわりを発信する機会」とし、関連事業や学習を通して、地域との連携を一層推進するとともに、児童に地域への感謝の気持ちや、ふるさとへの愛着を育てた。
- ・地域と連携した体験学習である「ふるさと学習」を、1学年1取組で実践した。「ふるさと学習」の取り組みにより、地域について児童が深く学び、地域の一員としての自覚、地域を愛する心情を育てた。
- ・地域連携コーディネーターが中心となり、本宿小サポーターズクラブやJA関係者、地域協力者等の協力を得て、水田・農園活動を推進した。
- ・新型コロナウイルス感染症予防の取り組みや、日々の学習の成果、特徴的な教育活動の紹介などを学校便りやホームページで発信した。
- ・図書やヤギボランティアの方々など、教育支援ボランティアの力を教育活動に生かした。

⑨ 小中連携の推進

- ・新型コロナウイルス感染症予防のため、小中連携の活動は制限されたが、小中連携コーディネーターを中心に、実践交流や来年度の計画についての協議を行った。

(2) 重点目標への取り組みと自己評価

① 学校が楽しいといえる児童が90%以上

児童のアンケートでは、93%（昨年度比5.0%↑）で、目標を達成した。児童が「学校が楽しい」といえるためには、安心して学べる学級である、仲の良い友達がいる信頼できる教師がいるなどがあげられる。

そのために、今年度は、感染症対策を取りながら、きめ細かい児童観察・相談、クラス遊び等を実践してきた。

来年度は、児童観察や家庭との綿密な連携を行い、児童の困り感に素早く気づき、問題の未然防止と早期発見・解決に向けて取り組んでいく。

② 漢字・計算の定着率1・2・3年90%以上 4・5・6年85%以上

2学期末の学習状況調査では、漢字の定着率が1・2・3年で90%（昨年度同数値）、4・5・6年で84%（前年度比9%↑）であった。計算の定着率が、1・2・3年で93%（前年比3%↑）、4・5・6年で88%（前年度比14%↑）であった。4・5・6年生の漢字以外で目標を達成することができた。

今年度は、授業以外でも、朝の基礎基本の時間や家庭学習において「読み書き計算」の確実な定着に向けて取り組んできた。

来年度も、朝の基礎基本タイムの充実を図り、反復学習、小テスト、TT指導（1・2・3年）少人数指導（4・5・6年）により、個の課題に応じた指導を行い、学び残

しないように、一人一人の「読み書き計算」の向上に取り組んでいく。

- ③ 家庭で学習する習慣（学年×10分）が身に付いている児童80%以上
保護者アンケートでは81%（昨年度比1%↓）であったが、児童アンケートでは72%（昨年度比6%↑）で、目標を下回った。
今年度は、家庭学習の内容や方法を明確にした「家庭学習スタンダード」を作成し、全校で統一した指導を行ったが、特に高学年で家庭学習の習慣が十分に身に付いていなかった。来年度も「家庭学習スタンダード」による全校で統一した指導を、保護者と連携して行い、児童が主体的に、家庭での学習に取り組み、学校での学習を復習し確実に自分の力にするように指導する。
- ④ 友達に優しくしようと心がけている児童90%以上
児童アンケートでは98%（昨年度比5%↑）で、目標を達成できた。
今年度も教育目標「豊かな心を持ち仲良く助け合う子ども」を受け、「優しさはすべての行動を前向きにする。」というスローガンを掲げ、日常の様々な場面で、優しい言動や思いやりのある言動を褒め、強化してきた。また、日常の授業や生活の中だけでなく、地域との連携を通して、地域の人への感謝の気持ちも育てた。
来年度も、優しい言動や思いやりのある言動を褒めるとともに、互いに協力したり感謝の気持ちをもったりできる活動を充実させていく。
- ⑤ すすんであいさつする児童90%
保護者アンケートでは86%（前年度比4%↓）で、児童アンケートでは84%（昨年比4%↑）で、目標を下回った。
今年度は、「あいさつ10運動」を全校で行うなど、あいさつを指導してきたが、授業や朝会、集会での「語先後礼」等を全校で指導することができなかった。また、日常的な挨拶の定着が不十分であった。特に高学年児童が低かった。
来年度は、教員からの挨拶の実施や自分を支えてくれた周囲の人々に敬意を意識させる指導を行い、自然にあいさつができるようにするとともに、地域の方々や来校者へあいさつを増やしていく。
- ⑥ 外で元気に遊ぶ児童90%
児童アンケートでは72%（前年比4%↑）で、目標を下回った。特に4年生以上の数値が低い。今年度は体力向上委員会が中心になる運動の日常化に向けた取組ができなかったり、高学年が中休みに委員会活動等があったりして、外遊びができない状況でもあった。
外遊びを通して望ましい友達関係を築くことは重要である。また、体を思いきり動かした後は学習への意識も高まる。
- ⑦ 学校のきまりを守って生活する児童90%
児童アンケートでは90%（昨年度同数値）で、目標を達成できた。児童が学校に決まりを守って生活しようとする意識が定着している。
特に今年度は、感染症予防のための守るべき決まりを、主体的に守ろうとする行動が見られた。
しかし、登校時刻を過ぎて登校する児童がいたりするなどの課題もある、家庭とも連携し、繰り返し指導していく。

⑧ 自分の安全を自分で守ろうと心がけている児童 90%

保護者アンケートでは92%（昨年度比2%↓）、児童アンケートでも93%（昨年度同数値）で、目標を達成できた。

今年度は感染症予防のため、地域と連携した防災訓練や交通安全教室は実施できなかったが、毎月の避難訓練、セーフティ教室は実施した。各訓練への参加態度は大変よく、安全への意識の定着を感じさせる。

しかし、廊下を走ったり、階段を複数段飛ばして上り下りしたりする児童がいて、日常生活の中での安全への意識向上が課題である。日常の指導を粘り強く、繰り返し行い、児童の安全への意識をさらに高めていく。

3 次年度以降の課題と対応策

(1) 児童の学力を図る。

- ① GIGAスクール構想によるICTを活用した授業の充実、「ふるさと学習」の充実、プログラミング教育の充実を図る。そのために、学習支援員、ICT支援員、地域コーディネーター等の人材を有効に活用する。
- ② 問題解決学習に充実に向けて、学習問題の精査を行う。
- ③ ねらいを明確にした授業、友達との交流により児童同士が高め合う授業等、本校で実践してきた「学び合いのある授業」を実践していく。
- ④ 個の課題に応じた指導を行い、学び残しのないように、一人一人の漢字力、計算力の向上に取り組む。
- ⑤ 学習規律（授業規律、持ち物、ノート指導等）の定着を一層進める。
- ⑥ 学年で連携した家庭学習を実施するとともに、家庭と連携し児童の実態に応じた家庭学習の取り組みをさらに強化する。

(2) 教師の資質向上を図る。

- ① 校内研究で「ICTを活用した問題解決学習」に取り組み、授業を公開し合い、互いを高め合う。地域に愛情をもつ児童の育成への指導力の向上を図る
- ② 授業中のノート指導や板書等のショート研修に取り組み、教師の指導力の向上を図る。
- ③ 自己申告を活用し、各自の授業改善の目標、方法を指導する。
- ④ 副校長による授業観察を積極的に行い、人材育成を推進する。
- ⑤ 3回のサービス事故防止研修を行い、サービス事故防止への教員の意識を向上させる。

(3) いじめの未然防止、早期解決を図るとともに、安全性を高める。

- ① 児童の実態把握に努め、組織的な対応、保護者との連携し、未然防止、早期解決に努める。
- ② 研修を通して嘔吐発生時の対応力を高めた。
- ③ 児童情報の共有、ロールプレイ研修を実施し食物アレルギー事発生防止に努める。

(4) 不登校の防止に努めるとともに、不登校児童、家庭への対応を充実させ、不登校児童を再登校に導く。

- ① 教師による日常的な児童観察、児童観察やスクールカウンセラーによる相談、家庭との綿密な連携を強化し、児童の心情を理解するように努め、問題の未然防止と早期発見・解決に向けて取り組んでいく。

② 不登校児童の保護者との面接、連絡を定期的実施し、共通の目標のもと、協力して対応する。

(5) 特別支援教育等、個別に配慮を必要とする児童への指導を充実させる。

① 個別に配慮が必要な児童へは、学校支援員の個別指導、巡回指導、SC、特別支援教室等の階層的な支援を実施する。

② 保護者や関係機関（巡回相談チーム、民生児童委員、府中市子供支援センター、児童相談所、スクールソーシャルワーカー）との連絡を密にし、児童一人一人の状況把握に努め、児童が安心して生活できる環境づくりを支援する。

(6) 基本的な生活習慣を定着させるとともに、他者への優しさ、思いやりを育成する。

① 学期に1回、生活月目標にあいさつを掲げたり、挨拶指導重点週間を設けたりして、重点的にあいさつ指導を行う。

② 「ふるさと学習」、農園活動、見学活動を中心とした体験活動を通して、社会性を身に付けるとともに、自然への感謝や畏怖の心、働くことの意味や社会貢献の大切さを育む。

(7) コミュニティスクールの推進

① 地域と連携した体験学習である「ふるさと学習」の取り組みを充実させ、地域について児童が深く学び、地域の一員としての自覚、地域を愛する心情を育てる。

(8) 小中連携の推進

① 年間3回の小中連携の日を実施した。教育課題ごとに分科会を組織し、分科会ごとの課題研究、研究協議を実施した。教科横断的なねらいや生活指導についても研究を深める。

② 中学教員の出張授業や小中教員の実技研修など、教員間の連携も深める。

(9) 感染症拡大予防に対応した学習活動、学校行事を工夫するとともに、児童の健康安全を図る。

① 日常的な学習活動や運動会、展覧会、宿泊学習、校外学習を実施するにあたっては、感染症拡大予防策を講じた実施方法や内容を工夫する。

② 手指消毒、うがい、マスクの着用、身体的距離の確保等の、感染症拡大予防のための行動を指導する。

③ 感染症拡大予防のための、登校時の見守り、健康観察、授業形態の確認、消毒用消耗品の配布・補充等の対応を、組織的に行う。